

伊達な うわじま 安心ナビ

防災アプリ

宇和島市の公式アプリ「伊達なうわじま安心ナビ」は、今後想定される南海トラフ地震などが起こった場合に避難活動を支援するための、防災モードを搭載したアプリケーションです！

新機能

「津波浸水深」をARで確認！

「ハザードマップ」「津波浸水深」に、津波の水面の高さが確認できる、AR機能が追加されました。

新機能

標高機能追加！

防災モード「マップを見る」から、標高によって施設を絞り込めるようになりました。防災モード「マップを見る」と「施設詳細」から、収容人数と標高を確認できるようになりました。「施設詳細」の「地図で見る」から、現在地ボタンを押すと現在地の標高が表示されるようになりました。

無料！

ダウンロードは
こちらから！



災害時に避難する施設を事前に確認！

「防災スポット検索」や「マップを見る」から、防災スポットを事前に確認し、災害時に備えることが出来ます。ピクトサインも日本基準(IIS)に対応しています。

災害時の安否確認も簡単！

J-anpiにリンクして、家族や知人の名前や電話番号で安否を簡単に確認することができます。

災害の被害を予測！

ハザードマップで、事前に津波や土砂崩れの危険がある地域を把握することができます。

災害で通信が混雑しても安心！

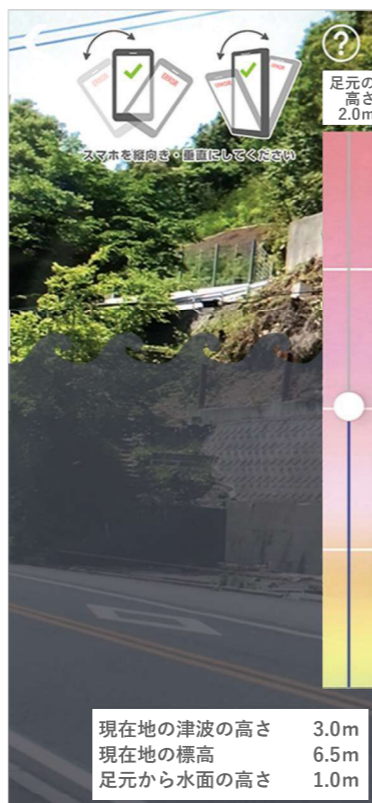
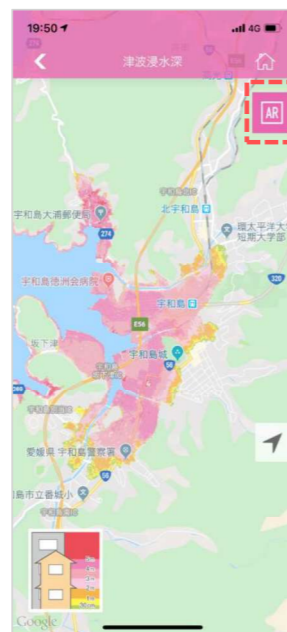
災害時、通信が出来ない状態になっても、事前にオフラインマップをダウンロードしておけば、GPSナビで防災スポットまでの直線距離を確認することができます。

災害時、音声で情報収集も！

FMがイヤホンにリンクして、災害時などには災害情報を収集することができます。

ARカメラへの誘導

「ハザードマップ」⇒「津波浸水深」⇒「AR」⇒ARカメラ



ARカメラとは、GPS情報と連動して、現在地の津波浸水深を合成し、さらには現在地の標高や水面も表示します。
※津波浸水深想定地域外の場合、津波浸水深は表示されません。

標高機能の紹介

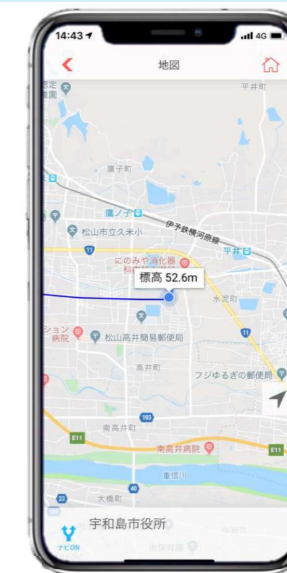
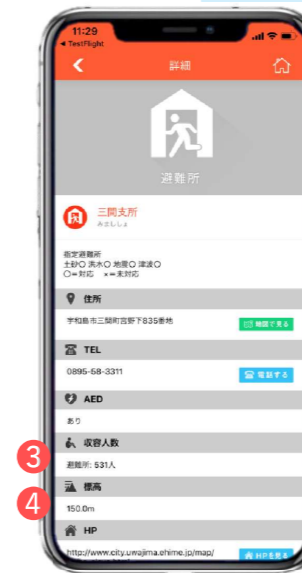
① 標高バー 起動時は標高0mで、全ての施設を表示しています。施設カテゴリを選択し、バーをスライドさせると、想定した標高を越える場所に立地する施設が絞り込み表示されます。

② 施設をタップすると、施設名の下に収容人数と標高が表示されるようになりました。

③④ 施設詳細画面に、収容人数と標高の項目を追加しました。

⑤ 「地図で見る」から行く地図画面で、現在地ボタン「↑」をタップすると、現在地の標高が表示されます。

標高機能については、多言語（英語・韓国語・中国語）対象です。



ARカメラの使い方

① 足元の高さ ② バー 起動時は0.0mで、地上にいることを想定しています。建物内にいる場合、バーをスワイプして階数にあわせて高さを調整してください。※高さはバーにあるラインを目安に、1メモリ1階を想定しています。

③ 現在地の津波の高さ（津波浸水深） 津波による浸水域の地面から水面までの高さになります。津波浸水深想定地域外の場合は表示されません。

④ 現在地の標高 現在地の地面における標高を表示しています。

⑤ 足元から水面の高さ 足元からの水面までの高さを表示しています。起動時は地面から水面までの高さを表示している為、足元の高さを調整すると、水面の高さも変動します。



⑥ ヘルプ ヘルプ画面を表示します。

⑦ 閉じる 津波浸水深のハザードマップに戻ります。

⑧ ERROR表示 スマートフォンが傾いている場合、ERRORとなり、津波の高さが正しく表示されません。スマートフォンを縦に向け、地面と垂直になるように調整してください

身長160cmの人が、スマートフォンカメラを140cmの高さに持った場合、5m先に見える水面を想定しております。